

② MRI 災害時の対応について

GE ヘルスケア・ジャパン株式会社 中部サービス部 部長 国谷 幸宏

【はじめに】

先の東日本大震災を踏まえ、今後の対応策や課題点、また弊社お客様の事例をご紹介します。災害時における MRI 装置への安全性についてご説明をさせていただきます。

【被災状況】

東北 6 県と茨城県における GE ヘルスケア・ジャパン株式会社製（以下 GEHC 製）の MRI 装置 197 台の内、津波による浸水被害が 3%、建物損壊や停電による磁場消失がそれぞれ 1%、原発避難による被害が 2%と合計 7%の装置において直接的、間接的な被害が発生しました。

【震災後のコール状況】

震災発生直後からの弊社カスタマーコールセンターへ入った震災関連のお問い合わせ事例の一部をご紹介します。

- ・昨日の地震発生後から停電になっているマグネットの LHe は、後どの位もつか？
- ・停電復旧後、内圧が 9psi LHe88%と内圧が高く、TLT の Scan をしたところ値がおかしい。このまま、検査をしても大丈夫か？
- ・キャビネットが倒れ機械室がめちゃくちゃな状態。病院外から電話しているので詳細不明。どこから手をつけていいかわからない。修理のめどをつけることはできるか？
- ・地震でマグネットが移動してしまった。
- ・物資が届かないので、患者様を他院に搬送して長期的に閉鎖する。System はどこまで落とせば良いか？

【まとめ】

MRI 装置に対しては、震災時の長期停電時の磁場消失や、MRI 装置が設置されているシールドルームの被災などが想定され、他のモダリティ以上に緊急マニュアルの作成や、緊急時の対応訓練などが重要だと考えられます。また、病院全体の安全対策のとりくみとして、このようなスタッフ間の情報共有の場を定期的にもうけて頂く事により、被害を最小限に防ぎ、早期復旧、二次災害のリスク低減により、災害時においてもいち早く地域医療に貢献していただく事が可能となります。過去の震災の経験を踏まえ、今回の発表が今後の安全対応策の策定の一助になれば幸いです。